

# 「一筆啓上」書簡碑



徳川家康譜代第一の功臣  
 徳川家康譜代第一の功臣  
 で宛作左の勇名をとどろか  
 せた本多作左衛門重次が陣  
 中から妻にあて「一筆啓上、  
 火の用心、お仙泣かすな、  
 馬肥せ」と書き送った話は  
 有名である。文中のお仙と  
 は嫡子仙千代で、後の福井  
 城主結城秀康に仕え、数度  
 の戦いに武勲を立て丸岡城

6代目の城主となった本多成重のことである。この書簡碑は天守閣石垣の東北端に建てられている。



本多家菩提所 (本光院)



有馬家菩提所 (高岳寺)



スタンプ欄

霞ヶ城公園管理事務所

〒910-0231 福井県坂井市丸岡町霞町 1-59  
 TEL.(0776)66-0303 FAX.(0776)66-0678



# 丸岡城(霞ヶ城)



今から430余年前の天正3(1575)年、織田信長は北陸地方の一向一揆を平定するため大軍を派遣し、当時丸岡の東北4kmの山中にあった豊原寺を攻略し寺坊を悉く焼き払った。信長はこの恩賞として柴田勝家に越前之国を与え、守護職とし、北ノ庄(今の福井市)に築城を命じた。勝家は甥の勝豊を豊原に派遣し豊原城を構えたが、翌天正4(1576)年豊原から丸岡に移り城を築いた。これが現在の丸岡城である。勝豊以後、安井家清、青山修理亮、同忠元、今村盛次、本多成重以下4代、有馬清純以下8代の居城を経て明治維新となった。大正中期より昭和の初期にわたり濠は埋められ、現在は本丸と天守閣と僅かに石垣を残し城域は公園となっている。昔の城郭は五角形の広い濠を有し外郭に待屋敷を配置し、さらに河川を利用し外濠を設け寺院民家を包容し城下町を形成していた。丸岡城は現存する天守閣の中で最も古い建築で、外観は上層望楼を形成して通し柱がなく、一層は二階三階を支える支台をなし、屋根は二重で内部は三階となっている。又、屋根が全部石瓦で葺かれているのが全国にも稀な特徴である。このような古調に富んだ望楼式天守閣は後の時代の松本城、彦根城、姫路城など層塔式天守閣と比較すると、いかに城郭建築の初期のものであるかがうかがえる。昭和9年国宝に指定されたが、昭和23年福井大震災により倒壊した。昭和25年重要文化財の指定を受け、昭和30年に修復再建された。



平成元年(一九八九)四月八日、日本で初めてドイツのマルクスブルグ城と丸岡城が姉妹城となりました。マルクスブルグ城は、ライン河畔で、唯一破壊されたことのない城で、一三三一年に文書に記録されて以来、今日まで人が住んでいた古城です。



丸岡城の手前に資料館、霞ヶ城公園があります。

## 丸岡城歴代城主

柴田勝豊	天正4年~天正10年	(1576~1582)
安井近家	天正10年~天正11年	(1582~1583)
青山修理亮	天正11年~天正15年	(1583~1587)
青山忠元	天正15年~慶長5年	(1587~1600)
今村盛次	慶長5年~慶長17年	(1600~1612)
本多成重	慶長17年~正保4年	(1612~1647)
本多重能	正保4年~慶安2年	(1647~1649)
本多重昭	慶安2年~延宝4年	(1649~1676)
本多重益	延宝4年~元禄8年	(1676~1695)
有馬清純	元禄8年~元禄15年	(1695~1702)
有馬一準	元禄15年~享保18年	(1702~1733)
有馬孝純	享保18年~寛延3年	(1733~1750)
有馬允純	寛延3年~安永元年	(1750~1772)
有馬誉純	安永元年~天保元年	(1772~1830)
有馬徳純	天保元年~天保8年	(1830~1837)
有馬温純	天保8年~安政2年	(1837~1855)
有馬道純	安政2年~明治2年	(1855~1869)

### データみる丸岡城

- 天守閣の高さ/12.6m
- 石垣の高さ/6.0m
- 城の高さ/1.66m
- 城山の高さ/17.0m
- 石瓦の重さ/約20~50kg(1枚)
- 石瓦の枚数/約6,000枚・重さ約120t